

令和6年度事業報告書

社会福祉法人湘南の風

目 次

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
基本理念・経営の原則・法人の方針	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
法人主要課題	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
利用実績	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
部門別	
法人本部／総務課	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～14
もやい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～18
mai!えるしい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～20
えいむ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～22
新葉山はばたき	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22～25
支援センター風	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25～31
グループホームジャストサイズ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31～34
委員会・研究会	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35～37

はじめに

令和6年度を終えて

本年度は主要事業として「感染症や災害に対する対応力の強化」「人材確保と育成」「法人の将来像の検討」「利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応」の4つを掲げました。いずれも概ね予定通りの事業の進捗がありました。

なかでも本年度より検討を開始した「法人の将来像の検討」については、高齢化が進むこれからの通所施設の役割、将来的なグループホームの支援内容や量的な検討、逗子葉山における障がいのあるこども達の変化を踏まえた新規事業への取り組みについて、職員の労働条件等処遇の向上等法人のあらゆる面について、運営会議や施設長会議において、これまで職員から挙げられてきた意見を踏まえながら検討を進めました。今後、中期事業計画や各年度の事業計画において具体的に進めてまいります。

「利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応」については、対策の一つとして「日中サービス支援型グループホーム」の設置に向けて準備を進めているところですが、今年度は、逗子市沼間に建設地を確保し、近隣住民の方への説明会を経て、基本的な建物の設計が完了するという大きな前進がありました。今後の予定として、令和7年度中に建設に着手し、令和8年度中の開設を目指します。そして、利用者の生活を支える肝ともいえる職員の育成と適正配置等支援体制を整えるべく準備を進めます。

その他の主要事業においても継続して取り組み、適切な福祉サービスを提供し利用者の地域での安心した暮らしが継続できるよう取り組んでまいります。

令和7年5月
理事長 小林 倫

社会福祉法人湘南の風

基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

経営の原則

当法人は、事業を執行するに際し、法人定款第3条に規定する法人経営の原則を遵守します。

【定款】

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

法人の方針

1. 福祉サービスの質の向上

- ① いわゆるサービス利用困難者に対するサービス提供の実現を目指します。
- ② 個別支援計画の充実とサービス提供管理体制を構築します。
- ③ 障害者権利条約を守り、権利ある主体である個人の尊厳を重視した支援を行います。
- ④ 良質なサービス提供により利用者・家族・関係機関・地域社会との信頼関係を築きます。
- ⑤ 第三者委員によるサービスレベルの客観的な評価を受け、サービスの向上に努めます。
- ⑥ 人材育成と職員のモチベーションの向上のため、研修の充実を図ります。

2. 経営の透明性

- ① 法令遵守と権利擁護の推進により、地域社会の信頼を得るべく努めます。
- ② 第三者評価を積極的に受審し、運営事業の客観的な評価を受けます。
- ③ 事業運営の適正化を図るため、内部監査の充実を図ります。
- ④ ホームページや広報誌等により、事業内容や計算関係書類等の法人情報を公開します。

3. 経営基盤の強化と財政の健全化

- ① 中期事業計画に基づき、効率的な事業遂行と予算執行を行います。
- ② 法人の意思決定を行う中枢機関として本部機能を強化します。
- ③ 防災・減災体制を整備し、危機管理体制を強化します。
- ④ 各事業所における会計管理、予算執行管理を推進します。
- ⑤ 請求業務のチェック体制を強化し、正確で効率的な請求を行います。
- ⑥ 人材確保のため、年間を通じた職員採用計画を再構築します。

法人の主要事業

1. 感染症や災害に対する対応力の強化

○事業概要

感染症や災害発生時においても継続的なサービスの提供が行えるよう業務継続計画（BCP）を作成するとともに、関係者と共有し、平時から研修、訓練（シミュレーション）を行う。

【令和6年度の実績】

各事業所において、令和6年度事業計画を踏まえ年間計画を作成し、適宜工夫をしつつ実施しております。各事業所では、業務継続計画（BCP）に基づき、「感染症対策委員会」及び「自然災害対策委員会」を定期的に開催し、研修と訓練も予定通り実施しました。

また、安全衛生委員会主催の「感染症対策研修」を公益財団法人逗葉地域医療センター内の逗葉地域在宅医療・介護連携相談室に講師を依頼し、嘔吐物の処理方法についての講義及びロールプレーでの実践を行いました。研修終了後、研修受講者による各事業所単位での伝達研修を実施しております。

2. 人材確保と育成

○事業概要

各施設の教育係の指導技術の向上を図り、また、多様な人材の受入れを踏まえたOJTとそれを補完するOFF-JT（職場内集合研修）を実施する。

【令和6年度の実績】

各事業所において、年間の職場内集合研修計画を作成し実施しております。実施状況等は、適宜法人内で共有しています。人材確保については、各就職エージェントの費用対効果を検討し、コストを抑えてより効果が得られるよう創意工夫しました。OJT及びOFF-JTについては、各事業所で創意工夫し、人材育成を図りました。また、階層別研修に「管理職等」の階層を新設し、学芸大菅野名誉教授による4回の研修を計画（3回実施）し、支援の変遷から支援の構造的な理解等を学び、今後の障がい者支援に求められる姿を考察しました。（未実施の1回はR7に実施）

3. 法人の将来像の検討

○事業概要

- ・ 少子高齢化や逗子葉山の地域における近年の障がい児・者の状況の変化を踏まえ、将来の福祉ニーズにも対応するため、サービス対象者の拡大や新たな事業展開等を検討する。

【令和6年度の実績】

高齢者、障がい児・者のニーズ把握をしつつ、将来的に安定した法人運営のための事業実施手法を検討しています。具体的には、新葉山はばたきを活用した放課後デイサービス事業の実施等や、近隣市のニーズへの対応の可能性等（既存施設の活用や新たな事業展開等）を検討しました。今後、事業化可能な案件を精査します。

- ・ 法人事業の効率的な運営を目指し、組織管理体制の見直しを検討する。

【令和6年度の実績】

常勤職員提案事項を参考に管理職で会議を開催し、中長期の課題として検討しております。

法人本部と施設長で中長期の課題整理及び対応すべき事案とその対応手法等を検討しました。検討内容を踏まえた中期事業計画の改定を検討しています。組織管理体制の見直しについては、

法人の長期にわたる安定した運営のため、各事業所の正規職員の配置数のあり方や各事業所を管理・監督する管理職の配置の必要性和意義について検討しました。

4. 利用者の重度化・高齢化に伴い出現する諸課題への対応

○事業概要

日中サービス支援型グループホームの開設に向けて、建設及び運営の検討を進める。また、同GHの安定的運営に向けた準備として、既存のGHと通所施設職員の連携した勤務体制を整備する。併せて通所施設ごとに利用者の高齢化・重度化に伴い出現する様々な課題への対応と予防的な対応について、研究・検討を進めていく。

【令和6年度の実績】

施設建設に関しては、第2回理事会・第1回臨時評議員会で計画書のご承認を頂いたのち、土地の購入、設計の業務委託を行い、打ち合わせを重ねました。令和6年12月・令和7年1月の2回、近隣住民説明会を開催し地域住民の理解を基本的に得ました。令和7年1月に県に事前相談(事前協議)を行い運営手法と施設の基本設計について了承を得て、2月に逗子市自立支援会で事業の説明を行い要望・意見ともになく結果を県に報告する等、神奈川県と日中サービス支援型グループホームの指定に向けた協議等を行いました。

開設準備については、令和6年4月1日付けで、多数の職員に兼務辞令を交付し、毎月1～2回程度主に平日の夜勤業務に従事しました。運営手法等は、理事長、事務局長、ジャストサイズ施設長、ジャストサイズ副施設長により、検討を重ねております。

利用実績

事業所名		定員	契約者数	年間稼働日数	延利用者数	稼働率	事業計画比較	
							延利用者数	達成率
もやい		40 名	47 名	242 日	9,206 名	95.20%	9,620 名	95.20%
もやいデイサービス		20 名	25 名	242 日	1,841 名	38%	2,500 名	73.6%
日中一時支援		5 名	8 名	242 日	812 名	67.20%	605 名	134.20%
ヘルパー派遣 行動援護 移動支援			8 名 60 名	365 日	125 名 737 名			
mai!えるしい		20 名	18 名	242 日	3,607 名	74.5%	4,114 名	87.6%
えいむ		40 名	50 名	242 日	8,979 名	92.7%	9,680 名	92.7%
新葉山はばたき		30 名 令和6年4月より	31 名	242 日	6,462 名	89.0%	6,825 名	94.6%
支援センター風	特定相談 障害児相談 介護保険		290 名 171 名 43 名	245 日				
地域活動支援センター		10 名	20 名	242 日	528 名	21.8%		
ジャストサイズ		44 名	44 名	365 日	13377 名	83.3%	13,6510 名	98%
ジャストサイズ（小坪・堀内）		小坪 2 名 堀内 1 名	44 名	365 日	706 名	64%	750 名	94%

部 門 別

法人本部／総務課

1. 法令遵守

令和6年度報酬改定の実施を受け必要な手続き等を確認し、各事業所の体制届の提出を行いました。
また、育児・介護休業法の改正を踏まえ、湘南の風で子育てを支援し、働きやすい職場環境づくりのため育児のための休暇・休業を法令の定めを超えて改正した他、就業規則や給与規程の軽微な改正を行う等、常に法令遵守と適切な法人運営を念頭に業務を行いました。

2. 中期事業計画

昨年度改定した令和4年度から令和8年度までの中期事業計画に基づき進捗管理を行いました。特に、日中サービス支援型グループホームの整備については、ジャストサイズと連携し、沼間3丁目に適地を購入し、県・市と協議し、設計に着手し、令和8年度に開設すべく準備を進めました。
各事業所の支援事業、施設・設備整備事業に関して計画年度の変更が様々な要因により必要となる場合には、理事会・評議員会において計画の修正を諮ります。

3. 連絡調整

毎月、情報共有会議、運営会議、施設長会議を開催し、法人の適切な運営を図りました。特に、運営会議は、各事業所の経営状況を各事業所が報告し、情報の共有と課題の洗い出しと対応等を行い法人経営の適正化を図りました。
年間を通じて、法人内外の連絡、情報の収集・分析・発信及び理事会・評議員会、運営会議等諸会議の運営、第三者委員の事務局機能を担いました。

<理事会開催実績>

第1回理事会

開催日	令和6年5月31日（金）	出席者	理事6名 監事0名
議案第1号	令和5年度事業報告及び決算について		（承認）
議案第2号	中期事業計画の改定について		（承認）
議案第3号	令和6年度定時評議員会の招集について		（承認）
報告事項	(1) 理事長の職務執行状況の報告 (2) 予備費の使用について		
その他	日中支援型グループホームの整備について		

理事会（郵送によるみなし決議）

開催日	郵送によるみなし決議	出席者	理事6名 監事2名
議案第1号	令和6年度定時評議員会の招集について		（承認）

第2回理事会

開催日	令和6年7月2日（火）	出席者	理事5名 監事2名
議案第1号	日中サービス支援型グループホーム建設事業計画について		（承認）

議案第2号	令和6年度第1次補正予算(案)について	(承認)
議案第3号	日中サービス支援型グループホーム用地取得に係る金銭の借入について	(承認)
議案第4号	基本財産の担保提供について	(承認)
議案第5号	日中サービス支援型グループホーム建設予定地取得に係る契約の締結について	(承認)
報告事項	令和6年度 第1回臨時評議員会の開催について	

第3回理事会

開催日	令和6年10月1日(火)	出席者	理事5名 監事1名
議案第1号	「もやい」生活介護事業運営規程等の一部改正について		(承認)
議案第2号	日中サービス支援型グループホーム建設に係る設計及び施工管理業務委託契約の締結について		(承認)
報告事項	(1) 理事長の職務執行状況の報告について (2) 予算の執行状況及び予備費の使用について (3) 県指導監査の結果の報告について		

第4回理事会

開催日	令和7年3月11日(火)	出席者	理事5名 監事2名
報告事項	(1) 理事長の職務執行状況の報告について (2) 予算の執行状況及び予備費の使用について (3) 評議員の辞任について		
議案第1号	定款の一部改正について		(承認)
議案第2号	就業規則の一部改正について		(承認)
議案第3号	給与規程の一部改正について		(承認)
議案第4号	役員報酬規程の一部改正について		(承認)
議案第5号	育児・介護休業等規程の一部改正について		(承認)
議案第6号	令和7年度給食調理業務委託契約について		(承認)
議案第7号	令和7年度役員等のために締結される保険契約について		(承認)
議案第8号	令和7年度事業計画(案)について		(承認)
議案第9号	令和7年度収支予算(案)について		(承認)
議案第10号	評議員会の招集について		(承認)
議案第11号	評議員候補者の推薦について		(承認)
議案第12号	評議員選任解任委員会の招集について		(承認)
議案第13号	施設長等の選任について		(承認)
その他	令和7年度人事について		

<評議員会開催実績>

定時評議員会

開催日	令和6年6月20日(木)	出席者	評議員8名
報告	令和5年度事業報告について		
議案第1号	令和5年度計算書類及び財産目録の承認について		(可決)
議案第2号	社会福祉法人湘南の風中期事業計画の改定について		(可決)
報告事項	予備費の使用について		
その他	日中支援型グループホームの整備について		

第1回臨時評議員会

開催日	令和6年7月8日(月)	出席者	評議員7名
議案第1号	令和6年度第1次補正予算(案)について		(可決)
議案第2号	基本財産の担保提供について		(可決)

第2回臨時評議員会

開催日	令和7年3月21日(金)	出席者	評議員6名
議案第1号	定款の変更について		(可決)
議案第2号	役員報酬規程の一部改正について		(可決)
議案第3号	令和7年度事業計画(案)について		(可決)
議案第4号	令和7年度収支予算(案)について		(可決)
報告事項	(1) 予備費の使用について (2) 令和7年度人事について (3) 評議員の辞任について		

<第三者委員施設訪問実績>

3/15 に年間活動の打ち合わせを行い、8/26、9/13、10/21、11/18、12/10、1/21、2/18、3/18 に分けて各事業所の施設訪問を行いました。また、今年度は暫く訪問を行っていなかった各ジャストサイズへの訪問を行いました。

4. 人事

①採用

日中サービス支援型グループホームの開所に向けて、積極的に職員の採用を行いましたが、想定外の退職者も生じたため計画した正職員の純増には至りませんでした。

職員の採用は、複数の求人サイトや転職サイトの積極的な活用及び、ホームページによる採用情報の掲載を行いました。他に、法人活動のPRを中心とし広報委員会との連携により、インスタグラムの開設を行いました。実績として、正職員については新卒者0名、中途採用者3名、有期契約職員については14名を採用しました。

②研修

集合研修

研修名	実施日	講師又は依頼先	内容	対象者	参加者
新採用職員研修	4月、6月、 9月	法人管理者	法人の理解、障がいの理解等について	新規入職正職員	3名
接遇研修	6月・7月	研修委員	対人サービスの基礎となる接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ	新規入職職員	8名
介護技術研修	8月27日・29日	神奈川県介護福祉士会	介助の基本、人間の自然な動きや業務内の困った事例について	新規入職職員ならびに未受講者	20名
メンタルヘルス研修	9月中	動画視聴（所内研修）	メンタルヘルスケアの必要性を理解し、ストレスへの具体的な対策について理解を深める	法人職員全員	—
障害者虐待防止・身体拘束等適正化研修①	12月3日	神奈川県立保健福祉大 岸川 学 氏	障がい者虐待の基礎的な理解や虐待防止のための取り組みを学ぶ	法人正職員	—
障害者虐待防止・身体拘束等適正化研修②	12月～1月	動画視聴（所内研修）		障害者虐待防止・身体拘束適正化研修①未受講者	—
感染症対策研修①	12月6日	逗葉地域医療センター	ノロウイルス等感染症に対する具体的な対策について理解を深める	法人職員 (各事業所2名程度)	—
感染症対策研修②	1月～3月	法人職員	ノロウイルス等感染症に対する具体的な対策について理解を深める (感染症対策研修①参加者による伝達研修)	法人職員全員	—
安全運転講習会①	1月9日・22日	三井住友海上火災保険 株式会社 講師	交通安全に対する意識向上を図るため動画ツールによるKYT訓練	運転業務に関わる法人全職員	—
安全運転講習会②	2月中	動画視聴（所内研修）	交通安全に対する意識向上について	安全運転講習会①未受講者	—
食事介助・嚥下機能研修	3月13日	逗葉地域医療センター	適切な食事介助や誤嚥防止、口腔ケアについて理解を深める	法人職員	—
階層別研修①	通年	法人管理者	支援の基礎となる基本的な知識の習得する	1～3年目正職員	13名
階層別研修②	通年	法人管理者	各事業所の事例を通して具体的な支援知識を深める	4～9年目正職員	13名
階層別研修③	通年	法人管理者	事業所の目的を達成させるために、チームで課題解決に取り組める人材を育成する	10年目以上、主査、サビ管、業務リーダー	19名

階層別研修④	通年	東京学芸大名誉教授 菅野 敦 氏	福祉制度の変容を見据え、湘南の風が提供すべき 障がい者支援について考える	施設長、課長、副施設長 等	15 名
中間事業報告会	10 月 4 日	各事業所職員	令和 6 年度上半期の事業報告（対面実施）	法人正職員	—
事業報告会	3 月 29 日	各事業所職員	令和 6 年度事業報告（対面実施）	法人正職員	—

派遣研修

研修名	実施日	主催	内容	対象者	参加者
サービス管理責任者 更新研修	6/19・6/20、7/18- 7/19 8/5・8/29	かながわ障がいケアマネ ジメント従事者ネットワ ーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現する ために必要なサービスの総合的かつ適切な利用 支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	サービス管理責任者	4 名
サービス管理責任者 基礎研修	—	かながわ福祉サービス振 興会	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現する ために必要なサービスの総合的かつ適切な利用 支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者 ※当年度該当者無	0 名
サービス管理責任者 補足研修	—	かながわ障がいケアマネ ジメント従事者ネットワ ーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現する ために必要なサービスの総合的かつ適切な利用 支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者 ※当年度該当者無	0 名
サービス管理責任者 実践研修	1/14-2/7	神奈川福祉サービス振興 会	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現する ために必要なサービスの総合的かつ適切な利用 支援等の援助技術を習得し、資質の向上を図る	実務経験年数充足者	1 名
相談支援従事者 初任者研修	—	かながわ障がいケアマネ ジメント従事者ネットワ ーク	障がい者等の意向に基づく地域生活を実現する ために必要なサービスの総合的かつ適切な利用 支援等の技術を習得し、相談支援業務に携われ る人材を育成する	相談支援補助従事者 ※当年度該当者無	0 名
相談支援従事者 現任者研修	—	かながわ障がいケアマネ ジメント従事者ネットワ ーク	相談支援に従事する者が、障がい者等の意向に 基づく地域生活を実現するために必要なサービ スの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術を 習得し、資質の向上を図る	相談支援従事者 ※当年度該当者無	0 名
社会福祉法人 経営塾	10/29-10/30 1/27- 1/28	全国社会福祉法人経営者 協議会	地域共生社会の実現に向けて多種多様な実践に 取り組む地域福祉の担い手として、次世代の法 人運営を担うための視点や役割、知識を学ぶ。	管理者	1 名

強度行動障害支援者 養成研修（基礎研修）	10/17-10/18 12/26-12/27 2/19-2/20	藤沢育成会 清和会 光友会	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援を 行う職員の人材育成を目的にする	強行支援者	5 名
強度行動障害支援者 養成研修（実践研修）	11/21-11/22 12/26-12/27	藤沢育成会 光友会	強度行動障害を有する者に対し、適切な支援計 画を作成することが可能な職員の人材育成を目 的にする	強行基礎研修修了者	4 名
新任福祉・介護施設等 職員合同交流・研修会	—	神奈川県社会福祉協議会	分野・種別を超えて同じ階層の仲間と共に福祉 従事者としての意識を高め、専門職として学び 続ける姿勢をつくる	初任正職員 ※当年度該当者無	0 名
中堅職員合同交流・研修 会	—	神奈川県社会福祉協議会	これまでの仕事の振り返りや同じ階層の仲間と の交流を通じて中堅職員としての目標をつくる	中堅正職員 ※当年度該当者無	0 名
新任職員キャリアパス対 応生涯研修	10/7・10/11	神奈川県社会福祉協議会	社会福祉従事者の基本姿勢や新任職員の役割を 学び、従事者としての将来像をマナブ	新任正職員	1 名
中堅職員キャリアパス対 応生涯研修	10/31・11/1 11/21・11/22	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を 理解し、キャリアアップの方向性及び組織の発 展、人材育成に必要な知識及び技術の向上を図 る	リーダー職	3 名
管理職員キャリアパス対 応生涯研修	10/12、18	神奈川県社会福祉協議会	管理職員としての役割を理解し、キャリアアップ の方向性及び組織の発展、人材育成に必要な知 識及び技術の向上を図る	管理者	1 名
職場研修担当者研修会	—	全国社会福祉協議会 中央福祉学院	職場研修の運営実務に関する知識、及び技術の 習得を図る	研修担当職員 ※当年度該当者無	0 名
安全運転管理者等講習会	10/2	神奈川県警察	自動車の安全な運転に必要な知識、運転従事者 への安全教育に必要な知識及び技能、安全運転 に必要な知識及び技能	安全運転管理者	3 名
福祉経営研究機構 オンラインセミナー	—	福祉経営研究機構	社会福祉法人の今後の 20 年～事業継続を考え る～	管理者 ※当年度該当者無	0 名

人事労務セミナー	2/14	公益法人協会	職員採用時の人事管理のポイント、自己都合退職と合意退職、解雇の有効性と適正基準、退職者の守秘義務、有期契約での途中解雇等適切な法人運営のための知識等について学ぶ	管理者	1名
障害福祉事業経営セミナー	3/12	全国社会福祉法人経営者協議会	社会福祉法人に障害児・者の地域生活とニーズに即した実践や地域生活を支援する拠点機能の発揮が必要となることを受け、求められる取り組み、今後の事業展開、課題を再確認する。	管理者	1名

視察研修

研修名	実施日	視察先	目的	対象者	参加者
自主県外視察研修	中止	—	—	—	—

③職員育成

職員については、年度当初に自己申告書を作成し、職員育成指針に基づく目標設定等を行いました。下半期には目標の振り返り、自己評価、管理者の評価・面談を行いました。有期契約職員については、新年度に向けた契約更新の意思確認も含め、年末から年始にかけて意向調査を実施しました。

④給与

給与、賞与、退職金等の計算、社会保険加入手続き等を行いました。

⑤その他

国家資格取得に係る受験費用を法人から支給する制度を令和元年度から設けました。当年度、国家資格取得者への報奨金を2名に支給しました。

⑥福利厚生

例年職員厚生団体への支援・補助を行っておりますが、今年度につきましても引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、事業実施を見送ったため補助金の交付は行いませんでした。

5. 広報

法人会報を年4回発行しました。情報開示については、法人ホームページでの定款、財務諸表の公開をはじめ、全国社会福祉法人経営者協議会等の関連団体の専用サイトなどを活用し、経営の透明性を担保する情報開示に努めました。

6. 防災

緊急連絡網を年度当初及び入退職の度に更新し、有事を想定した緊急連絡テストを実施しました。

7. 収入

令和6年度に報酬改定がありましたが、加算の影響もあり増収となりました。障害福祉サービス等の事業収入は、前年度と比較して約3,227万円の増収となりました。

8. 運営管理出納事務

毎月行われる運営会議にて各施設の稼働率・資金収支の推移を確認し、問題点の早期発見及び問題解決の話し合いを随時行いました。

9. 委託業務出納事務

計画のとおり執行しました。

10. 施設整備出納事務

えいむにおいて外壁等改修工事(約2,400万円)、mai!えるしいにおいてLED化工事(約600万円)を行いました。その他各事業所において経年劣化による修繕や細かい整備を行いました。

11. その他

法人設立30周年を記念し、実行委員会と共に記念式典及び各種行事、記念誌・記念動画の作成、写真展の実施等を行い、約560万円を支出しました。

また、ジャストサイズと連携し、沼間3丁目に日中サービス支援型グループホームの用地を購入

(約 3 億円) し地元住民への説明会を開催し、設計の業務委託を締結(約 3,100 万円) し設計を行ったほか、神奈川県と日中サービス支援型グループホームの指定に向けた協議等を行いました。

もやい（生活介護／日中一時支援/行動援護・移動支援）

1. 支援事業

(1) もやい

①男女人数 男性 28 名 女性 21 名

②年齢構成 18 歳～63 歳（平均 41.8 歳）

③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	1	15	7	24	47

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	23	重複障がい（知的、身体）	22
身体障がい	1	重複障がい（身体、精神）	1
		合計	47

⑤入退所の状況

新規利用者 1 名

退所者 1 名（逝去：1 名）

⑥支援の内容

各グループの利用者の特性や年齢に合わせ、グループごとに目指す支援の環境と目指す職員像を設定し各職員で共有しました。それを基に日々の支援を組み立て取り組みました。また各グループの具体的な課題解決を目的に月 2 回、継続的なミーティングを実施しました。その結果、利用者の特性に合わせた環境の整備が進めました。

利用者の高齢化への対応として知的障害者用認知症判断尺度の判定方法について所内研修を行い実際に認知症が疑わしい利用者の判断を行いました。それに基づき支援方法の変更を行っています。

障がいの重度化への対策として、提供する活動内容等の見直しや対応方法の変更を行いました。重複障害（知的・身体）の方を中心にスヌーズレンやムーブメント・リズム体操・創作的な活動等を提供し、利用者の中には、コミュニケーションが活性化した方、能動的な動作が増加した方が見られています。

今後も利用者のニーズに即した支援を展開してまいります。

(2) もやいデイサービス

①男女人数 男性 14 名 女性 8 名

②年齢構成 49 歳～91 歳（平均年齢 70 歳）

③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	4	5	5	7	4	25

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	2	重複障がい（知的、精神）	1
身体障がい	18	重複障がい（身体、精神）	2
精神障がい	2	合計	25

⑤入退所の状況

新規利用者 1名（3カ月のみ利用）

退所者 1名（逝去）

退所者 2名（入所）

⑥支援の内容

今年度は、3年に1度の障害者総合支援法の報酬改定があり、令和6年4月よりもやいデイサービスは活動提供時間の変更をおこないました。（変更前10：00～15：00・変更後9：30～15：30）午前・午後共に活動時間にゆとりができ、現在入浴サービスを利用している方以外に、入浴サービス希望の3名の方への入浴提供につながりました。

また、帰りの送迎時間も30分遅くなったことで、午後の集団活動（トランプ・麻雀）などは、仲間と過ごす時間も増えました。

提供時間の見直しで、利用者からは、もやいデイサービス利用中ゆとりを持って過ごすことができましたとの声も聞かれました。

季節を感じる外出などは、お花見（桜・つつじ・紅葉）を中心に、季節ごと外出をおこないました。今年度は、法人設立30周年食事イベントもあり、10名程度参加されました。参加者からは、「普段食べないコース料理を食べられて良かったです。食べるのにとっても緊張しました」等様々な感想をいただきました。今後も、利用者の方が楽しめる外食イベントの企画など検討していきます。

(3) 日中一時支援

①男女人数 男性76名 女性2名

②年齢構成 14歳～39歳（成人3名を含む）

③基本報酬区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	0	0	5	1	41	1	8

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	7	未判定	1
		合計	8

⑤入退所の状況

新規利用者 0名

退所者 1名（他事業所利用）

⑥支援の内容

利用する児童・生徒の社会適応の観点から一人ひとりの障がい特性に応じた「余暇支援」「学習支援」「運動」等、一人ひとりに適した活動プログラムを提供しました。

遊びや運動を通じて社会的ルールを学ぶこと、選択する取組みを通じて児童・生徒の成長を確認することができました。

(4) ヘルパー派遣事業（行動援護・移動支援）

① 行動援護

- ・契約者数 男性 7 名 女性 1 名 （合計 8 名）
- ・障害支援区分

	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2	5	8

月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
延利用者数	9	14	10	7	10	6	10
延時間数	43.5	69.5	60	39.5	60	41.5	59.5
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
延利用者数	12	13	12	10	12	125	
延時間数	70.5	78.5	57.5	53.5	64	697.5	

② 移動支援

- ・契約者数 男性 32 名 女性 28 名 （合計 60 名）
身体介護有：45 名 身体介護無：15 名

月別利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
延利用者数	48	65	60	59	60	64	64
延時間数	263	337.5	346.5	295.5	346.5	389	336.5
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
延利用者数	68	60	63	61	65	737	
延時間数	365	323	343	307	352	4004.5	

① 支援の内容

移動支援事業については、8 名新規利用契約を締結しましたが、行動援護事業については、1 名ご逝去され、新規契約者もいませんでした。

移動支援事業については、外出先も遠方に行かれる利用者も増え、都内へ買い物・浅草、上野方面散策や空港見学、熱海、箱根足湯巡りなど利用者の希望に沿った外出を提供いたしました。

家族や利用者の方から希望があった、仲の良い利用者と買い物や飲食等の時間を設定し交流する支援も取り入れました。引き続き、家族・利用者の希望やニーズに合わせた支援を提供し、充実した余暇活動を過ごせるようサポートしていきます。

行動援護については、行動障害等特別な配慮が必要な利用者に対して、行動援護等の修了資格を持っている従事者が、視覚的支援（予定の提示、写真・文字）を提示し、利用者の方に見通しが持てる支援を提供しました。落ち着いて公共交通機関を利用し外出することができています。（蒲田、小田原・秦野・平塚など）

令和 9 年 3 月まで、行動援護従業者養成研修修了者・強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）修了者の対応について経過措置が延長になりました。引き続き、対応できる行動援護従事者を増

やしながら、次年度においても引き続き他事業所（研修修了者・介護福祉士等）との連携体制を整備し、支援向上に向けて体制を整備します。

現在、マスクの着用については、個々の判断とさせていただきます。

2. 施設管理事業

全稼働日のトイレ清掃を業者委託することで業務の効率化に役立ちました。その他、電気設備、消防設備、エレベーター等の定期的な保守管理を行うことで安全な環境を維持しました。

3. 施設整備事業

エレベーターの地下機械室排気ファンの改修工事を行いました。また、経年劣化に伴う設備を随時更新しました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
5/17	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）修了者ミーティング	小野
6/24・25	令和 6 年度 強度行動障害支援者養成研修基礎研修（指導者研修）	山崎
7/30	令和 6 年度新任職員人権研修	吉田
10/8	2024 年度 知的障がいのある方への支援の研修	松田
11/9	令和 6 年度 感染症予防研修会	高橋
11/21・22	強度行動障害支援者養成研修（実践）	藤代
1/31	令和 6 年度新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会	木村 吉田
2/10	令和 6 年度神奈川県版意思決定支援ガイドライン研修	山崎
2/20	令和 6 年度 介護技術研修（基本編）	吉田
2/28	2024 年（令和 6）年度第 34 回こうさい療育・支援セミナー	菊池

・所内集合研修として年間計画を策定し、月に 1 回、正職員と非常勤職員（支援員）が一堂に会し、支援の基礎から応用を学ぶ機会を設定しました。研修の方法はテーマにより講義・グループワーク・演習としました。グループワークや演習は実際の事例を用いて、獲得した知識や技術を早期に支援現場に反映するよう工夫しました。

・月に 1 回の集合研修に加え、サポーターズカレッジのウェブ講義の視聴を行う研修会を下半期から月に 1 回実施しました。所属するグループ毎にテーマを設け、該当するコンテンツの視聴を行いました。生涯学習・地域支援研究会実践・研究フォーラム' 24 に参加し“活動参加へ強い拒否を示す壮年期ダウン症者への支援”についての発表を行いました。

5. 防災事業

①訓練 火災訓練を 1 回（3 月）、津波訓練（屋上避難）を 1 回（12 月）実施しました。市内一斉大津波避難訓練（10 月）に参加しました。

② 備品 備品のリスト作成と動作確認を実施しました。

6. BCP（業務継続計画）

新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続及び自然災害発生時における業務継続計画
年4回会議実施（6月・9月・1月・3月）

嘔吐物処理訓練実施（8月・11月）

防災備品の点検（9月）、差し替え実施（日程調整中）

小型発電機動作確認実施（1月）

新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続及び自然災害発生時における業務継続計画の改定作業実施

7. 総括

本年度は、新型コロナウイルス等の影響による事業所の閉鎖等はありませんでしたが、感染者が増加した時期等は、個別に通所を控える等の影響がありました。利用者の安全な活動提供を第一に考え、必要な感染対策を講じながらサービスの提供にあたりました。

質の良い支援を提供するため、月次で行っている全職員参加のミーティングを職員の知識や技術を獲得するための人材育成の場として、年間でテーマを定め、講義やグループワークを実施しました。正職員非常勤職員共に支援の目的や意図を十分に理解し、支援方法等に様々な改善が見られました。その結果、利用者の中には、これまでより情緒的に安定したり、意欲的に活動に参加する方が増える等多くの面で効果が見られました。一方で昨今の人材不足等の影響を受け、年度途中の職員採用等により、全体的に実務経験が少なめの職員集団となっています。引き続き、職員の知識や経験に応じたきめ細かいOJTの実践が肝要です。その他、法人への帰属意識を高め、職員みなが同じ方向を向き利用者支援に取り組めるよう、引き続き法人の「基本理念」等について学ぶ取り組みを実施します。

mai!えるしい（就労継続支援B型）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性12名 女性6名
②年齢構成 24歳～68歳（平均年齢45.1歳）

③障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
人数	4	0	5	6	3	0	0	18

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	14	重複障がい（知的、精神）	2
重複障がい（知的、身体）	1	精神障がい	1
		合計	18

⑤入退所の状況

- 新規利用者 0名
退所者 0名

⑥支援の内容

製菓作業では逗子市役所売店「青い鳥」での販売を軸に施設外就労先での販売、SNSを通じた顧客、3pm（さんじ）を通じた大口の注文、地域行事への参加など、販売機会の確保により前年比103.6%の増収でした。施設外就労、受注作業、受託製造・受託加工も合わせた全体の数字では昨年比104.7%となりました。①高齢化に伴う機能低下の防止②人的交流ややりがい、居場所・社会参加の支援③収入の向上、ステップアップ等のニーズに対しては前述の販売機会と併せ、工房を使用した製菓製造・受託製造・受託加工、施設外就労の機会により個々のニーズや充足感が満たせるよう活動を提供しました。当事業所以外の就労のニーズを表明された方へは相談員と情報を共有し、地域の他事業所に繋ぎ、併用となった方もいました。

2. 施設管理事業

支給実績から令和5年度よりも時給を50円アップし、平均工賃月額19,090円（令和7年4月30日現在、※支給額の算定式が令和6年より変更）となり、全国の平均工賃月額（23,053円）を超えることは出来ませんでした。

収益構造の軸となる製菓作業について収入は増加している反面、最も物価上昇の影響を受けており、次年度においては販売価格の見直し等が必要と考えます。稼働率の低迷の要因となっている新規利用者の獲得は次年度以降も継続課題となりました。第三者評価は予定通り受審し、結果が公表されています。

3. 施設整備事業

法定耐用年数を経過した照明機器についてLEDへの切り替え工事を実施しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
7月18、19日	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者更新研修	橘
9月19日	「対人援助技術研修－自分を理解し、他者を理解する－」	原田
11月11、25日	接遇リーダー研修	原田
11月18日	社会福祉基礎研修	三橋
11月22日	苦情解決研修会（実践編Ⅰ）	橘
12月26、27日	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	橘
2月19、20日		
2月27日	食品衛生責任者実務講習会	橘

【所内研修】（動画視聴）

内容	参加者
信頼関係を築くための社会人のマナー	6名
健康を維持するための身体の使い方	6名
ダウン症の理解	5名
知的障害と認知症	2名

5. 防災事業

①支援センター風と合同で、火災避難訓練1回、津波避難訓練1回を行いました。

②防災備品の点検・入替を行いました。

6. 工賃支払状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
金額	273,230	298,059	257,783	239,660	217,610	256,470	295,315
平均利用者数	14.8	15.5	15.1	13.8	14.7	14.9	15.2
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
金額	275,325	251,561	246,440	233,405	614,315	3,459,173 円	
平均利用者数	15.4	15.1	15.5	15.0	16.0	15.1 名	
平均工賃月額						19,090 円	

7. 総括

就労支援収入については製菓製造、受託製造、受託加工等ほぼ全ての事業で前年度比プラス、平均工賃月額は¥19,090、(R5¥18,075)となりました。一見前年より上昇しているように見えますがこれは令和6年度報酬改定により平均工賃月額の計算方法が変わったことによるものであり、前年度の工賃を変更後の計算式に当てはめた場合は前年比マイナス¥3,000 弱となります。次年度は前述のとおり販売価格の見直しや更なる販売機会の拡大により平均工賃月額¥20,000 台を目指します。また平均年齢が45歳となり利用者・ご家族の心身の状況にも変化が見られてきています。令和6年度は二名の利用者の家庭環境に変化が生じた年となりました。就労支援を軸に今後はご家庭の状況の確認や相談支援事業所との連携などをより緊密にしていきます。

えいむ（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 44 名 女性 6 名
- ② 年齢構成 19 歳～55 歳（平均年齢 38.0 歳）
- ③ 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	2	18	16	14	50

④ 障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	48	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	1	合計	50

⑤ 入退所の状況

新規利用者 1 名
退所者 0 名

⑥支援の内容

生涯発達支援の考えに基づき、若年層の方には作業の他に学習や生活スキルの活動を提供しました。内容としては、学生時代に学び、得意としていることや興味のあること、対人関係や公共の場でのルールを学ぶものとししました。得意としている計算や、興味のあるパソコン操作の学習を行うことで、利用者の方々の自信や更なる興味に繋がり、より難しい問題、操作に取り組む様子が伺え

ました。対人関係や公共の場でのルールを学ぶ機会では、机上のプリント問題では正当するものの、実生活への般化が難しく、今後の課題となっています。

高齢期を迎える利用者の方には、「知的に障害がある人のための認知症判別テスト」を使用し、他事業所職員も交えて、ご本人の現在の状態が以前とどう変わったのか確認する機会をもちました。当判定を行うことで、関わりのある職員間で、対象利用者の状態像の変化や今後の支援方針の共通認識をもつ機会となりました。当判定は、定期的実施することで対象利用者の方の状態変化を見逃さないようにしたいと考えています。

2. 施設管理事業

電気設備、消防設備、エレベーター等、業者による定期的な保守管理を行いました。

5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組み、施設内外の不用品の廃棄等、環境整備を行いました。

3. 施設整備事業

えいむ外壁鉄部の交換及び、塗装塗り替え工事を行いました。また、3 階食堂の引き分け戸と洗面台の改修工事を行いました。

その他、効果的な支援を行う上で、適宜、各利用者の障がい特性に応じた支援環境の整備を行いました。

4. 研修事業

実施日	内容	参加者
8/29	支援スタッフ部会例会 アンガーマネジメントの基礎と実践	熊岡
9/6	逗子市・葉山町基幹相談支援センター共催研修「虐待防止・権利擁護研修」	高野
9/14、15	PECS レベル 1 ワークショップ	熊岡
10/2	安全運転管理者等法定講習	斗舩
10/7、10/11	初任者キャリアパス対応生涯研修	矢野
10/24	衛生推進者養成講習会	斗舩
10/31、11/1	中堅職員キャリアパス対応生涯研修	池谷
11/12～12/20	国立のぞみの園セミナー2024「知的・発達障害者の認知症支援」（オンデマンド）	斗舩
12/15	TEACCH プログラム研究会実践報告	斗舩、鈴木 高野、矢野
12/21	生涯発達・地域生活支援研究会 実践・研究フォーラム 2024	斗舩
1/27	神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会	星野
2/5	神奈川県社会福祉協議会主催 コーチング研修	熊岡
2/7	逗子市・葉山町基幹相談支援センター共催研修「意思決定支援研修」	鈴木
2/28	神奈川県社会福祉協議会主催 サービス管理責任者資質向上研修	石黒

・所内集合研修として年間計画を策定し、月に 1 回、正職員と非常勤職員(支援員)向けに、利用者支援の知識や技術、権利擁護等の研修を実施しました。研修形式は、講義とグループワークを合わせたものとし、研修で得た知識等を即支援現場で活かせるものとなるよう行いました。

5. 防災事業

- ①訓練 BCP に基づく訓練・研修や火災を想定した総合訓練(通報・避難)を年2回実施しました。緊急連絡網の訓練について年2回実施しました。
- ②備品 使用期限切れの非常食の入替えを行いました。

6. 総括

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業はなかったものの、依然としてコロナウイルスに関連しての利用自粛が数名ありました。また、他市の送迎を実施していない地域からいらっしゃる方においては、ヘルパーの確保が難しく通所が希望通り出来ない方もおり、目標稼働率の達成に至らない要因の一つとなっています。このような方々に対し、どのような方法で通所していただくか、引き続き相談支援事業所も交えて検討してまいります。一方で、令和5年度に情緒的に安定せず通所が難しかった方に関しては、えいむ内での予定の伝え方や、活動内容の変更を通して、通所することに意欲を持ってもらい、結果、情緒が安定し通所日数の増加に繋がりました。これはご家庭と連絡を取り合いながら、職員間でケース検討を重ねて構築していった支援の効果だと感じています。

えいむには、社会的に不適切な行動を起こす、いわゆる行動障がいの状態にある方が複数名利用されています。このような方々が、安定・自立して生活が送れるよう、引き続き各種研修の受講による職員の知識や技術の向上を通して、ご本人の理解や状態に適した環境設定に努めてまいります。また、利用者の年齢にも考慮し、その時に必要な支援は何なのか、生涯発達支援の考えに基づき所内で検討を重ね、より良い支援に繋げてまいります。

えいむ（横須賀・三浦保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業：神奈川県委託）

1. 支援事業

業務内容としては①地域の関係機関からの支援依頼に応じたコンサルテーション②支援困難ケース等はかながわA（神奈川県発達障害支援センター）との連携をコーディネート③圏域の発達障害に係る課題の抽出④検討機会の構築（地域連絡会の開催）です。

機関コンサルテーション	地域巡回	関係諸会議への参加機会
68 件(前年比－2 件)	93 件(前年比－22 件)	59 件(前年比－1 件)

※かながわA連携業務は関係諸会議への参加機会に集約されています。

2. 総括

支援依頼の内容としては、児童期、成人期ともにサービス利用中の他害や暴言等の行動障がいに関するものが主でした。地域巡回においても、行動障がいを起こす方への対応や、事業所内での支援統一に苦慮しているとの相談が多く寄せられており、地域の課題として障がいに対する正しい理解と適切な対応方法の普及、機関連携の必要性を感じました。

新葉山はばたき（生活介護）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 16 名 女性 15 名

②年齢構成 19 歳～75 歳（平均年齢 42.3 歳）

③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	3	4	7	11	6	31

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	21	重複障がい（知的、精神）	1
重複障がい（知的、身体）	9	合計	31

⑤入退所の状況

新規利用者 3 名

退所者 1 名（他県の障害福祉サービス事業所利用のため）

⑥支援の内容

生涯発達支援に基づき、利用者個々の多様化するニーズに対して重点支援領域を設定し個別支援計画を策定しました。活動提供については年齢層や主たる障がいが多岐に亘るため昨年度に引き続き小集団でのレクリエーション（ボッチャ・バランスボール転がし・ミュージック等）の実施や受注作業以外に個別の自立課題等を提供しました。下半期以降、各利用者の重点支援領域に応じた活動提供が行えているか利用者毎に精査し、ニーズを充足していない活動種の検討をサービス管理責任者、生活支援員を中心に検討しました。

支援環境については、利用者の方の障がい特性に応じた環境整備を図り、限られた人員で効果的な支援が展開できるようフロアミーティング等でレイアウト変更や支援備品の入替え等を行いました。

2. 施設管理事業

- ① 法令に基づく消防用設備点検、エレベーター保守点検、害虫駆除防除については専門業者に委託し実施しました。
- ② 新規利用者の今後の受け入れ状況や町内外のサービスの需要含め地域ニーズを把握し 4 月 1 日付で定員を 40 名から 30 名に変更しました。
- ③ 法人中期事業計画に基づく新規事業（放課後等デイサービス、日中一時支援）の受託について法人本部を中心とした「中長期的課題」の検討を経て具体的な方向性を整理しました。

3. 施設整備事業

- ① 厨房内エアコン新設工事を 8 月 3 日に着手しました。
- ② 経年劣化が著しい 1 階男女 WC 排水管の新設工事を 11 月 11 日から 15 日の期間で着手しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内 容	参加者
5/14	令和 6 年度教育福祉連絡会	萩原
5/24	Bridge for Innovation 2024 CHX Yokohama	萩原
5/27	接遇マナー	下地
5/29	人事・労務担当者研修	萩原

6/10	令和6年度工賃向上計画作成セミナー	萩原
6/25	社会福祉基礎研修(初任編)	管原(将)
6/27	チームビルディング研修	岡本
6/28	逗子・葉山事業所交流会	三留
7/4	コミュニケーション研修	管原(将)
7/5	家族のための福祉型信託セミナー	萩原
7/12	障害者の特性と理解～自閉症の基礎～	管原(将)
7/26	苦情解決研修会(基礎編)	守谷
7/29	障害者福祉施設協議会新任職員研修会	下地
7/31	CareTEX 東京 24	萩原
8/27	神奈川県意思決定支援ガイドライン研修	岡本
8/29	アサーション研修	三留
9/6	ストレスマネジメント研修	下地
10/2	安全運転管理者等講習	萩原
10/3	第51回国際福祉機器展	萩原
10/8	神奈川総合リハビリテーション事業団主催研修	三留
10/24	障害福祉サービス事業所等向けロボット EXPO	萩原
10/28	障害者福祉施設協議会新任職員研修会	管原(将)
10/29	横三圏域サビ管研修	岡本
10/31・11/1	中堅職員キャリアパス対応生涯過程研修	守谷
11/11・11/25	接遇リーダー研修	三留
11/12	知的・発達障害者の認知症支援	三留
11/19	労務リスクマネジメント研修	萩原
11/21・11/22	中堅職員キャリアパス対応生涯過程研修	三留
11/22	苦情解決研修会(実践編Ⅰ)	岡本
12/4	神奈川県社会福祉協議会理事長・施設長セミナー	萩原
1/17	ハラスメント研修	岡本
1/30	横三圏域相談支援等ネットワーク形成事業圏域事例検討会研修	岡本
2/7	令和6年度プレリーダー研修	守谷
2/10	神奈川県版意思決定支援ガイドライン研修	岡本

【所内研修】(映像配信研修)

実施日	内 容	参加者
6 月期	知的障がい者とは	10 名
7 月期	ダウン症	10 名
8 月期	自閉症	9 名
12 月期	障害者虐待防止・身体拘束等適正化研修	14 名
1 月期	大規模災害と福祉施設	14 名
2 月期	安全運転講習会	11 名
3 月期	感染症発生時の対応	14 名

※ 研修コンテンツを活用した動画視聴研修以外にグループワーク等も適宜、開催しました。

5. 防災事業

① 訓練

感染症ならびに自然災害対策 BCP に基づき、各委員会の開催ならびに研修・訓練を実施しました。

② 備品 災害用非常食の更新を行ないました。

6. 総括

支援事業では昨年度同様、生涯発達支援の考え方を基本とし、各利用者の方に対して重点支援領域を設定し個別支援計画に基づき支援を行ないました。4月に新規利用者2名、8月に1名の計3名方が利用を開始し契約者数も増加しました。一方で在宅生活の継続が難しくなり1名の方が他県の障害福祉サービスを利用するため退所しました。下半期においては、利用者の重点支援領域に基づき不足するニーズの充足を目的とした「活動再編」の取り組みを継続して検討しました。

施設管理事業については、令和6年度の法人の報酬改定による経営面の合理化のため、今後のサービスの需要を考慮した上で定員を40名から30名に変更しました。また中期事業計画に位置付けられた新規事業(児童発達支援、放課後等デイサービス、日中一時支援等)の実施に向けて、法人本部を中心に「中長期的課題」の検討の場において実施時期等、具体的な方向性について整理しました。

設備整備事業については、令和6年度新葉山はばたき当初予算に基づき、1階厨房エアコン新設工事、1階男女WC排水管新設工事に着手しました。

研修事業では、研修計画に基づき、月1回程度の動画視聴研修以外に日々の業務を進める上で基本的な「職員行動指針の理解」をテーマに演習形式で研修を実施する以外に職員間のコミュニケーション含む組織性や帰属意識といった職場定着を目的とした「職場内課題解決研修」をテーマに演習形式で上半期、下半期に実施しました。派遣研修については階層や職責に応じて各職員を外部研修に派遣しました。

防災事業については、各種BCPに基づく会議の開催、研修及び訓練を実施しました。また葉山町と福祉避難所(二次避難所)の協定締結に向けた検討も行ないました。

事業全般としては2月にインフルエンザの感染が拡大し利用者9名、職員5名の罹患が確認されました。また利用自粛等もあったため稼働率が下がりました。次年度以降も感染予防対策を講じながら安定した稼働率の確保に努めます。また次年度は新たに3名(支援学校高等部卒業生2名と他市サービス利用1名)の利用を予定しているため、多様化する本人及び家族のニーズに対応すべく関係機関と連携しながら職員個々の支援の質の向上や地域ニーズに対応すべく新たな事業展開について関係機関とも検討を進めてまいります。

支援センター風：逗子市委託相談支援及び葉山町委託相談支援事業（逗子市・葉山町委託）

1. 支援事業

①相談支援の状況

逗子市：33名 501件 葉山町：13名 148件

両地域合わせて相談員員数11名 常勤換算7.2人 昨年比+0.5人

②活動の状況

訪問、同行、電話相談、個別支援会議、関係機関とのサービス調整及びサービス等利用計画に係る事務を行いました。

2. 総括

指定計画相談支援事業、指定障害児相談事業と一体的に運営しています。相談件数については委託相談のみの集計となります。引き続き、就労している方の生活面の相談、介護保険と障害福祉サービスのはざまのケース、サービス利用を希望しているが利用先が見つからないため計画に移行しないケース、短期間で意向が変化しサービス利用につながらないケース、家庭環境が複雑で養育者に障がいのあるケース、障がいがあり不登校になっているケース、発達障がいひきこもりのお子さんの社会との接点としての定期訪問等、多岐に渡りました。一方で全体的な人数・件数の減少については計画相談に繋がった方が増えたこと、状況が落ち着いている方が多いことなどが挙げられます。

支援センター風：指定計画相談支援及び指定障害児相談支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

①計画作成件数

逗子市民：750 件 葉山町民：411 件 横須賀市民：2 件 鎌倉市民：5 件 計 1168 件

計画相談利用人数：290 名

障害児相談利用人数：171 名

共に令和 7 年 3 月時点での利用者数

① 活動の状況

アセスメント、サービス等利用計画案の作成、個別支援会議の開催、サービス等利用計画作成及びモニタリング作成がサイクルで行われており、これらに付随して面接、訪問、連絡調整及び申請等の支援を実施しました。

2. 総括

計画作成件数（モニタリング含む）は前年度比 167 件増となりました。相談支援の利用人数が増えたことに起因しますが、相談員一人一人のケース数も増えている状況です。新規利用者の中でも児童のケースでは相談の初期から具体的な事業所の利用希望があることも近年の傾向として続いています。また多職種連携という視点からは障害福祉、児童福祉サービスだけでは支援ニーズに対応できないケースも引き続き増加傾向にあります。きょうだいともに支援が必要なケース、親子共に支援が必要なケース、介護保険との併用ケースなどに対応するため生活困窮者自立支援制度、成年後見人、保健医療機関、教育機関、企業、就労支援機関、行政機関等様々な分野の機関との連携が実績として増加しています。一方で積み重ねてきた連携の成果として、介護保険の併用により居宅療養管理指導や訪問看護、障害福祉サービスで重度訪問介護の利用を行い、グループホームで看取りを行ったケースがあった。障がい当事者の高齢化、重度化、またその家族の介護の問題等、介護保険関連事業所との連携機会は今後も増えていくもの考える。

支援センター風：逗子市基幹相談支援センター事業（逗子市委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援実施

障がい種別や各種ニーズに対応するための相談支援として地域の相談支援専門員やSSWなどからの相談5件、他機関連携を要するケースに関する対応2件、それらの分類に収まりきらない各種相談が24件となり、その他地域の指定特定相談支援事業所を訪問しました。困難事例へのグループスーパーヴィジョンや多機関連携会議、制度活用の相談、地域資源について等の情報提供と併せ、民生委員やケアマネジャーを対象に障がいや制度の説明を行いました。

②地域の相談支援体制強化の取組み

市内の相談支援機関との連絡会の開催（12回）、事例検討会（5回）、勉強会（1回）を行いました。移動支援事業や地域生活支援拠点等事業、避難行動要支援者等避難支援制度について説明や検証の機会を設けました。葉山町基幹相談支援センターとの共催研修として『多職種連携の事例報告ー8050 世帯や高次脳機能障がいのある方への支援についてー』、『統合失調症について』、を開催すると共に、人材育成・連携強化の取組みとして交流会を開催しました。交流会の一環としての事業所見学会ではお互いの事業所の役割等の説明や実際に利用されている方の様子なども伺うことが出来、机を挟んで学ぶ機会とは別の刺激を得る機会となり好評のお声を頂きました。

③権利擁護・虐待防止への取組み

葉山町基幹相談支援虐待防止・差別解消の取組みとして県所管課職員による障害者虐待防止法の講義と『不適切な支援』を減らす一方で『適切な支援』を増やすことを目的にグループワークによるこりほっとの事例共有を行いました。また権利擁護に関する取組みとして同じく県所管課による意思決定支援の取組みの報告と芹が谷やまゆり園での実践報告の機会を設け、意見交換を行いました。

④地域移行・地域定着促進の取組み

地域移行事例検討・情報交換会について、葉山町基幹相談支援センター、三浦市基幹相談支援センターと共催しました。地域移行・定着支援に携わっている相談支援事業所と病院が、それぞれの立場から同一のケースについて報告を行い、事例を通して支援や連携に必要な視点を学ぶ機会となりました。ピアサポーターにも参加していただき、当事者視点からの見え方、必要と感じられる支援についても意見交換することができました。

2. 総括

上記各事業について年間計画に基づき地域課題に対応した取組みを実施しました。連絡会や事例検討、研修等の取組みを基盤として計画相談等における個別支援の場面での連携が増加していることはこれまでの基幹相談支援センターの大きな成果と考えます。今後も日頃の取組みを土台としながら地域生活支援拠点等事業に関する検証及び検討のほか、重層的支援体制整備事業、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて関係各所と共同しながら取り組んでいきます。

支援センター風：葉山町基幹相談支援センター事業（葉山町委託）

1. 支援事業

①総合・専門的な相談支援の実施

町内外の支援機関からの相談に応じました。相談内容は療育手帳を所持していながらも両親の障がい理解にずれが生じているケース、地域の社会資源について、障害福祉サービス制度運用についての相談が主な相談内容でした。都内の行政機関から同規模と思われる基幹相談支援センターの役割

に関する照会など多岐にわたりました。

②地域の相談支援体制強化の取組み

自立支援協議会と一体的な運営であり、毎月の相談支援事業所とのネットワーク会議とその場を使った事例検討の機会を年4回持ちました。研修の機会は逗子市基幹相談支援センターと協働し、多職種連携の学びの機会としての8050世帯・高次脳機能障がいのある方の支援について、権利擁護研修としてののこりホット等の共有、相談支援事業所向けの統合失調症について、地域移行・定着のためのケース報告とグループワーク、意思決定支援をテーマにした神奈川県所管課による講義と事例報告等の研修を実施しました。

③葉山町自立支援協議会の企画運営

全体会議	地域生活支援ネットワーク委員会
7/16、12/19、3/25	5/28、7/1、8/5、9/3、10/22、12/17、1/21、2/4、3/10
運営会議	相談支援ネットワーク委員会
6/26、11/28、3/5	4/9、5/14、6/11、7/9、8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/18、3/18

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

他市の関係機関から地域資源や、制度についての問い合わせなど、様々な内容で相談を受けました。相談支援ネットワーク委員会では、ご本人や家族の高齢化、子供を含めた世帯全体の課題について意見交換や情報を共有する機会を持つことで、様々な視点から困難事例の検討をすると共に多職種連携の土台作りにも繋がりました。地域生活支援ネットワーク委員会では引き続き普及啓発に努める中葉山町の役場庁舎前での事業所による製品販売を行うことができ、より広く一般の方々に認知していただくきっかけとなりました。

支援センター風：逗子市地域活動支援センター（逗子市委託）

1. 支援事業

逗子市在住の各種障害者手帳保持者を対象として学習、作業活動等を提供する事業です。また、制度のはざま事業として障害者手帳を所持していない方の受入れも行います。生活介護事業、就労継続支援B型事業等、他施設との併用の方もご利用されています。年間を通じ、登録はされていても利用のなかった方、長期の入退院を繰り返し利用ができなかった方がいました。生活介護事業所の単独利用に移行し、地域活動支援センターの利用を卒業された方が2名、県外の事業所に入所されたため卒業をされた方が1名いました。

① 年齢構成 25歳～66歳

② 利用者の状況

	人数		人数
知的障がい	14	精神障がい	4
発達障害	1	高次脳機能障害	1
		合計	20

③ 入退所の状況

新規利用者 0名

退 所 者 3名

2. 総括

施設長（市町村相談員他兼務）1名、指導員2名（非常勤職員）を配置し、また、相談員2名が相談業務他と兼務しながら担当する体制で運営を行いました。開所日数は242日、利用延べ数は528名、一日平均2名（昨年比－1）でした。就労されている方の就労以外の社会活動の場、社会的接点が長らく無かった方の居場所、重複障害（知的・精神）による適合サービスが無い方の日中活動の場など地域の機関での受入れが困難な方に利用ニーズがある傾向は継続しています。

多様なニーズに応じたプログラムとして室内活動では、漢字や計算の学習、パソコン入力、塗り絵、習字の他、毎月の創作活動において季節の壁画制作を行いました。社会貢献としてペットボトルのキャップ回収を通してワクチン寄付活動、地域交流・社会参加を目的とした逗子ふれあいマーケットへの参加、健康維持のための運動プログラムに加え、年間を通じて SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行いました。

利用人数の減員に伴い、対応する職員や活動スペースに余裕ができたことから、より個別のニーズに応じた環境調整を行うことができました。具体的には多人数の活動が不快な刺激となる方に個別スペースを用意し、状況に応じて活動スペースを移動できるよう調整を行いました。その他、関係機関との情報共有、連携を強化し、利用者支援に活かしていきます。

支援センター風：逗子市自立支援会議運営事業（逗子市委託）

1. 支援事業

全体会議	運営会議	専門会議（子ども支援）	専門会議（就労支援）
8/5、2/26	6/27、1/16	10/11、2/21	7/11、12/12
定例会議			
4/17、5/22、6/19、7/17、8/28、9/18、10/16、11/27、12/18、1/15、2/19、3/19			

各会議に係る議事等の検討、資料作成、会議開催に関する調整と周知及び議事録の作成を行いました。

2. 総括

令和6年度の逗子市自立支援会議も、各種感染症の影響を受けることなく、年間計画に基づく事務局運営が出来ました。令和5年度から新たに設置した専門会議（子ども支援部門）ではライフステージを見通せるフローチャートの作成により相談先が明確になることで、保護者が子育てに見通しを持てること、関係機関同士の連携の一助となるようワーキンググループで取り組みました。定例会議における個別ケースを通して見えてきた地域課題としては行動障害のある方が利用できる社会資源が少ないこと、居宅介護や移動支援等の地域生活の支えとなるサービスについてはマンパワーの高齢化や人材不足などが顕著となりました。基幹相談支援センター連絡会と連携し抽出された課題については運営会議や全体会議、圏域の協議会への課題提案を行い、対応出来るように取り組みます。

支援センター風：介護保険・居宅介護支援事業（逗子市指定）

1. 支援事業

自宅において日常生活を営むために必要なサービスを利用できるよう居宅サービス計画を公正中立の立場で作成する介護保険法に基づいた事業です。

① 給付管理実績（ケアマネジャーは給付管理実績に基づき介護報酬を得ます。）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
管理数	43（＋7）	43（＋8）	43（＋10）	43（＋11）	43（＋11）	41（＋8）
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
41（＋6）	41（＋8）	43（＋11）	42（＋2）	42（＋3）	43（＋2）	508（＋87）

② その他

利用者の平均年齢は 77.6 歳（＋2 歳）、平均介護度は 2.8（±0）でした。

障害福祉サービスを併用している方は 20 名（－1 名）でした。

2. 総括

通年で給付管理件数は 508 件であり、昨年より 87 件増大しました。入院入所等で利用終了者 8 名に対し、新規利用者は 8 名であり、新規利用者と利用終了者は、通年比較で同等の人数でした。平均年齢や平均介護度は入退院等で年度内において給付管理の有無が生じるケースもある為、令和 7 年 3 月時点での数値となります。20 名の方が障害福祉サービスを併用しており、さらに 65 歳以下（2 号被保険者）で認知症をはじめとする特定疾病の発症による利用者も 7 名を数え、介護保険サービスと障害福祉サービス双方の連携したケアマネジメントが当事業所の特徴となっています。

昨年に引き続き、地域包括支援センターにおいて対応している困難事例や他機関多職種連携を要す事例、家族全体に複合的課題があるケースを複数支援し、地域ニーズに応えるよう努めてまいりました。

新規利用ケース 8 名の内、3 名が当法人通所施設の利用者及び利用者の親のケアマネジメントであり、利用者個々の支援あるいは世帯への支援に介護保険サービスが不可欠になっていることから潜在的な利用者を多く含む事業と考えられます。

支援センター風：各事業共通

1. 施設管理事業

各事業における事務の効率化のため、相談支援及び介護保険においてクラウドサービスを引き続き利用しました。共有するファイル利用の効率化の為、ローカルネットワーク内に共有フォルダを活用しました。

2. 施設整備事業

- ・法定耐用年数を経過した照明機器について LED 照明への切替工事を行いました。

3. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
4 月 26 日	障害支援区分認定調査員研修	宮内
6 月 22 日	KCN 主催 相談支援従事者 演習講師等養成研修	萩原
7 月 17 日	逗子市こども発達支援センター公開講座 「地域で作る子どもの笑顔」	吉原・萩原 宇賀神・大野 松島
8～12 月	神奈川県相談支援従事者初任者研修	宮内

9月1日～ 10月11日	介護支援専門員専門課程研修Ⅱ及び更新研修	稲木節
10月24、25日	相談支援・就業支援セミナー	萩原
11月12日 ～12月20日	国立のぞみの園セミナー2024 「知的発達障害者の認知症支援＋認知症にまつわる基礎知識」	大房・染谷
12月21日	生涯発達支援・地域生活研究会 実践・研究フォーラム2024	新井
1月30日	横三圏域 事例検討会（アセスメントの基本と技術）	萩原・宇賀神 大野・宮内
2月14日	横三地域医療的ケア児等コーディネーター主催研修 「医療的ケア児が地域でくらしていくために－保育園での実践」	大野・宮内
2月14日	逗子市男女平等参画推進啓発講座「性別でみる多様性と人権－LGBTQ だけじゃない！あなたの性の在り方は？」	萩原・宇賀神
3月15、16日	SST 研修「SST ファーストレベルセミナー」	飯田
3月25日	映画オレンジ・ランプ上映会&丹野智文さん講演会	稲木節・染谷 大房・新井

【所内研修】

実施日	内容	司会進行	事例提供者	書記
6/13	事例検討会	吉原	佐々木	荒井
11/8	事例検討会	松島	大野	興野
12/27	事例検討会	荒井	佐々木・飯田	佐々木
3/17	事例検討会	佐々木	宇賀神	萩原

4. 防災事業

①訓練

- ・mai!えるしいと合同で、火災避難訓練1回、津波避難訓練1回を行いました。
- ・防災備品の点検を行い、防災用品リストの更新及び非常食の状況確認を行いました。

グループホームジャストサイズ（共同生活援助）

1. 支援事業

- ①男女人数 男性 28 名 女性 16 名
- ②年齢構成 29 歳～68 歳（平均年齢 50 歳）
- ③障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2(+1)	5	9	12	16(-1)	44

④障がいの状況

	人数		人数
知的障がい	32	重複障がい（知的、精神）	0
重複障がい（知的、身体）	11	重複障がい（知的、身体、精神）	1
		合計	44

④ 入退所の状況

- 新規利用者 1 名
- 退所者 1 名（逝去）

⑤ 支援の内容

- ・利用者の年齢構成が 29 歳～68 歳、平均年齢は 50 歳、介護保険サービス併用者が 2 名となり高齢期に差し掛かる方への支援が日常的に行われるようになりました。具体的には認知症を発症した方への関わり、廃用症候群による歩行不全へのリハビリ、食形態の変更、日常からの医療との関わり、福祉用具の活用、職員の研修などです。
- ・医療連携については通所看護師の兼務による住居の訪問を 6 棟で継続し、健康管理の取り組みを実施しました。個別で訪問診療、訪問看護の利用をされている方は 27 名となりました。現在も調整中の利用者もあり、増加の見込みです。これにより、夜間時の急変に対応できるオンコール体制や往診だけでなく、定期的に医療者の目があることによる病気の予防に取り組める基盤となりました。
- ・入院されていた方の終末期をジャストサイズで過ごす、いわゆる看取りを行いました。医療機関をはじめ様々な関係機関に支えられました。準備から、アフターフォローに至るまで、今後役立つこの貴重な経験を全職員に共有し、法人理念、行動指針を改めて振り返る機会としました。
- ・1 名の方の受入をしました。利用者本人が自ら住まいの場を決める経過に携わりました。
- ・一方、虐待が疑われる案件が 1 件発生しました。市虐待防止センターの判断は虐待認定せずとなりましたが、支援に対する知識、技術、職員研修、休日の在り方に課題がありました。この案件は全ての住居、全ての職員に可能性があることと考え、事案を共有し、一人一人が我が事に置き換えて考える場を持ちました。
- ・令和 6 年 4 月以降、6 名採用、3 名退職でした。徐々に職員体制は拡充の方向ですが、日中サービス支援型開設を考えると充足には至っていません。
- ・日中サービス支援型グループホーム開設に向け、宿泊勤務が出来る職員の確保に努めました。通所事業所職員を兼務職員と位置づけ、定期的にジャストサイズの宿泊勤務に配置しました。

2. 施設管理事業

- ・令和 6 年 10 月 1 日に指定更新をいたしました。
- ・全常勤で行う職員会議、住居担当の常勤とサビ管、管理者で行う住居会議、非常勤を含む住居単位の支援員会議は今年度も同様の形態で取り組みました。支援員会議の時間を使い、非常勤職員にも研修の場を提供しました。
- ・家族懇談会は各住居 1 回ずつ持つことが出来ました。

3. 施設整備事業

- ・法令に基づく年 2 回の消防設備点検を実施しました。
- ・専門の業者による清掃はハウスクリーニングとエアコンクリーニングを実施しました。
- ・老朽化していたジャストサイズ池子の給湯設備を都市ガスに変更しました。
- ・各住居の共用部分に見守りカメラを設置し、運用を開始しました。

4. 研修事業

【派遣研修】

実施日	内容	参加者
6/19-20	サービス管理責任者更新研修	志村
6/22	建築は支援のひとつ 特性に合わせた建築的工夫	菊池・志村

6/23	日本グループホーム学会 研修会 グループホームの質を問う	菊池・志村
7/16	中堅職員合同交流研修会	吉田
8/1	CareTEX 東京 '24	菊池・志村
8/27	神奈川県意思決定支援ガイドライン研修	浅井
9/2	神奈川らくらく介護研修	山田
9/20	グループホームサビ管研修	志村
10/3	中堅職員合同交流研修会	山下
11/20	自閉症の特性と理解（オンライン）	6名
11/30	どこに住む？どう選ぶ？これからの障害者の住まい	菊池

【所内研修】

実施日	内容	参加者
職員会議	知的発達障害の高齢期への準備	全常勤職員
職員会議	様々な記録の書き方	全常勤職員
職員会議	福祉施設職員の仕事に必要な考え方	全常勤職員
職員会議	法人の基本理念を改めて考える	全常勤職員
支援員会議	虐待疑義案件の報告と虐待が起きる背景と防止について（8住居）	常勤・非常勤
支援員会議	困った行動の考え方（パニック行動・実際の事例を用いた研修）	水科・新水科
支援員会議	連絡帳の書き方（実際の事例を用いた研修）	小坪①②・水科 新水科・池子
支援員会議	他住居の事例から学ぶ。あなたならどう考える？	小坪②・新水科 堀内①②
支援員会議	分かりにくいを体験する	池子・新池子

5. 防災事業

- ①訓練 各住居で火災を想定した避難、地震と津波を想定した避難訓練をそれぞれ実施しました。消防署の指摘によりジャストサイズ水科に防火管理責任者を配置しました。
- ②備品 災害用備蓄品として停電時のスタンドライトを購入。BCP 見直しを行い、食料品の入替、防災訓練時に備品、食料品の所在を確認する取り組みを行いました。

6. 総括

昨年度は老衰による入院加療が必要となり退所された方がご逝去されました。本年度は8月に入院されていた方の終末期をジャストサイズで送る看取りに取り組みました。医療的ケアをはじめとする技術的な支え、事前研修による知識的な支え、職員の心的負担の支え、様々な支えにより実現しました。今後のモデルケースとなりえる経験となりました。訪問診療を利用する方は27名に、当事業所が通院を支援する方は28名になりました。ご家族が担っていた事柄のバトンタッチが徐々に進行しています。11月に新規利用者1名を受入れました。1名の募集に対し、9名の応募がありました。今後のグループホーム整備に必要なニーズとして受け止めます。

残念ながら虐待が疑われる事例が発生しました。職員の咄嗟の行動でしたが、知識技術の問題がありました。市虐待防止センターは虐待認定としませんでした。全職員に可能性のあることと受け止め事例の共有と、虐待防止の研修を改めて行いました。

職員の採用を進めています。年度当初に比べ常勤換算で1名以上増えていますが、新規事業を視野に入れると充足には至りません。次年度も更なる人材確保に努めます。

グループホームジャストサイズ（短期入所）

1. 支援事業

ジャストサイズ小坪

① 男女人数 男性 16 名（-2） 女性 10 名（+3）

② 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	2(+2)	2(-2)	9(+2)	6(-2)	7(+1)	26(+1)

ジャストサイズ堀内

① 男女人数 女性 8 名（±0）

② 障害支援区分

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
人数	0	0	0	3	3	2	0	8

2. 総括

昨年同様、男性 1 床女性 2 床で運営しました。ジャストサイズ小坪の女性利用が高まりましたが堀内の女性利用は少なくなりました。残念ながら県外施設への入所があったためです。共同生活援助の課題になりますが、女性住居の確保も急ぐ必要があります。

週末の利用はほぼ毎月見られるようになりました。加配が必要な方の受入も始めています。常時週末短期利用の開始を検討できる体制のために、職員の確保を行います。

ご本人、ご家族の高齢化による利用ニーズは引き続き増加の傾向にありますが、他方で若い世代のご利用も増えてきています。

短期入所は、ご家族の休息、ご本人の自宅以外での生活体験・経験の場、ご家庭の緊急時への対応など様々な機能がありますが、生活体験の場にはある一定程度の期間利用して頂く利用枠が必要となり、緊急時の受入についても同様です。新しいグループホーム運営において、これらのニーズに対するサービス提供を検討してまいります。

委員会・研究会

1. 委員会

*虐待防止・身体拘束等適正化委員会（委員長：杉山 正彦）

委員会を2回開催しました。委員会では、法人全体としての規程類から実際の支援の場面での虐待防止と適正な身体拘束が実施されているか確認し、研修の実施手法等についても、審議しました。

研修は、全職員を対象として、研修システムを利用した web 研修に加え、神奈川県立保健福祉大学より講師を招き、虐待防止と身体拘束適正化の2つのテーマで集合研修を実施しました。また、虐待防止・身体拘束適正化のため、全職員を対象としたアンケートを実施しました。

また、複数の事業所で不適切な支援を行ったことが判明したため、現状の把握・分析を行い、発生予防策を継続して検討していき、不適切な支援自体が発生しないよう取り組みを積み重ねることとしました。今後とも、虐待防止のための計画づくりや職員への研修実施、虐待防止のチェックとモニタリング等に取り組み、併せて身体拘束等の適正化のための対策についても検討を進めてまいります。

*支援向上委員会（委員長：植草良太）

今年度の支援向上委員会では、年度途中で取り組み目標が数回変更となり、結果として計画が中途半端な形で終了してしまいました。

当初、委員内で研修・会議等のスキルアップを目指して、問題行動ケースに関する手法や技術を学ぶ取り組みを計画しましたが、諸事情により途中で断念しました。次に意思決定支援に関する学びを目標として掲げましたが、こちらも継続できず終了しました。最終的には、新人職員向けに法人内で知っておくべき用語を整理し手引きにする取り組みをおこないましたが、年度末までに十分な進捗を得られないまま終了しました。

これらの経緯を踏まえ、次年度に向けては、今年度の取組を継続する方向性と、新たな目標を設定する可能性を慎重に検討します。具体的には、目標設定の明確化、計画の具体化、進捗管理の強化を図り、委員会としての成果を確実に上げられるように取り組んでまいります。

*安全衛生委員会（委員長：鹿遊英樹）

定例会議は月1回程度 ZOOM にて開催いたしました。感染症対策グッズ（嘔吐物処理用）の確認、感染症対策ハンドブックの改訂、新型コロナウイルス・インフルエンザ予防啓発、5S 施設巡回など年間計画通りに取り組みを行いました。メンタルヘルスケア研修は厚労省オンライン動画視聴形式で実施し、感染症対策研修は外部講師を招き講義と嘔吐物処理の実践を行い、各事業所にて伝達研修を行っています。令和7年度も計画的に進めていきたいと考えております。

*コンプライアンス委員会（委員長：志村俊樹）

各事業所で DVD を用いてマナーとコンプライアンス向上の研修を行いました。また虐待防止・身体拘束適正化委員会と連携し職員セルフチェックリスト、虐待防止早期発見チェックリストの調査を行いました。その他、生活介護や行動援護、移動支援の模擬請求チェックを行い、その後請求確認チェックシートの改善を行いました。

*広報委員会（委員長：吉原智恵子）

「湘南の風会報」の発行、法人ホームページの更新を行いました。利用者ご家族及び地域への積極的

な情報提供をしていく役割の下「湘南の風会報」は年度内に 4 号発行し、湘南の風で働く職員、それぞれの事業所での活動を紹介し情報発信を行いました。

法人ホームページは、より良い職員を採用できるよう採用ページの充実、Instagram の新規開設等も取り組みました。また、皆さまに興味を持ってもらえるようホームページ内の写真の入れ替えを随時行いました。今後も利用者ご家族及び地域の方々へ積極的な情報を提供してまいります。

＊感謝デイ実行委員会（委員長：原田祐基）

1. 日 時 令和 7 年 11 月 2 日（土）10 時～14 時
2. 場 所 湘南の風もやい全館、もやい駐車場
3. 共 催 社会福祉法人湘南の風 後援会
4. 協 力 逗子市
5. 後 援 葉山町、逗子市社会福祉協議会、葉山町社会福祉協議会
6. 協力団体 小坪区会 小坪商栄会、西町祭礼委員会、逗子市消防署、逗子市手をつなぐ育成会
葉山町手をつなぐ育成会、逗子開成高等学校、もやい家族会、えいむ家族会、新葉山はばたき家族会、日本栄養給食、お祭り委員会（もやい、えいむ、葉山はばたき mai! えるしい、各事業所の利用者）
6. 来場者数 300 名（推定）
7. 総 括 5 年ぶりの開催となった昨年度に続き、令和 6 年度も無事開催することができました。開催スローガンを「地域に支えられて 30 年 ～30 年分の感謝を込めて～」として、当日は雨天にも関わらず昨年度を超えるご来場を頂き、地域交流の場として貴重な機会となりました。利用者の中から募ったお祭り委員 18 名、当日ご協力を頂いた 30 名のボランティア様に加え、上記に記載した様々な方々のご協力があったのことで実行委員を始め、法人職員一同、『感謝の気持ち』を新たに作る機会にもなりました。

＊研修委員会（委員長：萩原崇至）

接遇研修及び介護技術研修、食事介助及び嚥下機能研修の企画の他、法人本部総務課とも連携し中間事業報告会及び事業報告会の企画・運営を行ないました。

法人主催の各研修が計画的に行なえるよう法人本部ならびに各委員会と協働して職員育成に寄与すべく活動を進めてまいります。

2. 研究会

＊自閉症研究会（会長：山崎彰雄）

法人内における自閉症者支援の在り方の研究と普及を目的として、各事業所から十数名の職員が参加し、12 回の研究会を開催しました。内容は、上半期に講義と演習を中心に「自閉症の理解」、「専門的なアセスメントの知識・技術の獲得」、「PECS（絵カードコミュニケーションシステム）の実践」等に取り組み、下半期は実践報告を中心に行いました。研究会での取り組み後、早速支援現場に活かす事業所もあり、有意義な研究会となりました。今後も、自閉症者支援に関する様々な取り組みの実践と検証を行います。

＊高齢化支援研究会（アドバイザー：萩原崇至）

中年期以降の方の事例について理解を深めるための様式（本人の状態像と置かれている環境等）について検討を行ないました。次年度は研究会のメンバー増員を図るべく定期的な研究会活動に取り組みます。また各通所施設において利用者の高齢化・重度化に伴い出現する様々な諸課題への対応と予防

的な対応について研究・検討を進めてまいります。

*生活支援研究会（アドバイザー：新井宏二）

令和6年度は新葉山はばたき施設長に講師をお願いし、全職員参加可能な『生活支援今昔』を企画しました。入職時からの支援の経過・課題・今後の展望についてお話しいただきました。また、参加者で利用者支援についての意見交換を実施しました。また利用者や家族の生活に関するニーズ調査をすべく、利用者向けの地域生活に関するアンケートの作成を行いました。

次年度も『生活支援』という幅の広いテーマの中で、会員の興味・関心のある分野に焦点を当て、研究や普及・啓発を行っていきます。『生活支援今昔』は令和7年度も企画し、湘南の風のこれまでの生活支援について、当時を知る職員にお話しいただく機会を継続していきます。また今年度作成した生活に関するニーズ調査を実施します。